

(2) 目指すまちのイメージ

将来都市像の実現に向けたまちづくりを進めるため、そこから導かれるまちのイメージとして次の5つを掲げ、それぞれの視点による亀山らしいまちづくりを目指します。

■ 快適に過ごせるまち

人々の暮らしにおける利便性向上に必要な都市機能と、自然や歴史文化などの魅力が調和した『快適に過ごせるまち』を目指します。

■ 心と体の豊かさを感じられるまち

人々が住み慣れた地域において、心身ともに健康で生きがいを持ちながら充実した生涯を過ごす『心と体の豊かさを感じられるまち』を目指します。

■ 活力のあるまち

東西交通の要衝としての充実した交通基盤を生かし、広域的な連携・交流と、活発な産業が展開される『活力のあるまち』を目指します。

■ 豊かな子育てができるまち

亀山市ならではの充実した子育て支援と、質の高い教育に支えられながら、市全体が子どもたちの成長を見守る中で、『豊かな子育てができるまち』を目指します。

■ つながりと交流のあるまち

人と人がつながり、絆のある地域が自立しながら、多様な交流にあふれる『つながりと交流のあるまち』を目指します。



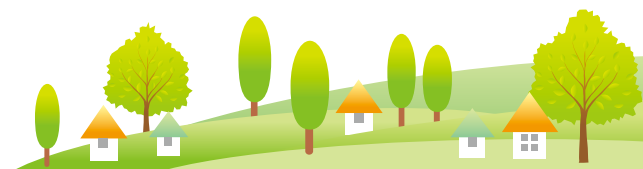
(3) まちづくりの基本方針

市民力・地域力が輝くまちづくり

第1次総合計画における「まちづくりの基本的な考え方」である『市民力で地域力を高めるまちづくり』は、10年の時を経る中で、平成22年4月に亀山市まちづくり基本条例を施行し、平成28年4月に亀山市地域まちづくり協議会条例を施行するなど、市民と地域が主体となるまちづくりの根幹となる考え方を明らかにするとともに、地域まちづくり協議会の市全域での設立という成果を生み出しました。

これから、将来都市像の具現化を図るためには、多くの課題を解決していかなければなりません。そのためには、市民・団体・地域・事業者など亀山市に関わるすべての主体がそれぞれの持つ力を合わせ、連携・協働してまちづくりを進めることが重要です。

こうしたことから、市民と地域の持つ力を生かし、輝かせるまちづくりとして、『市民力・地域力が輝くまちづくり』を、今後のまちづくりの基本方針として位置づけます。



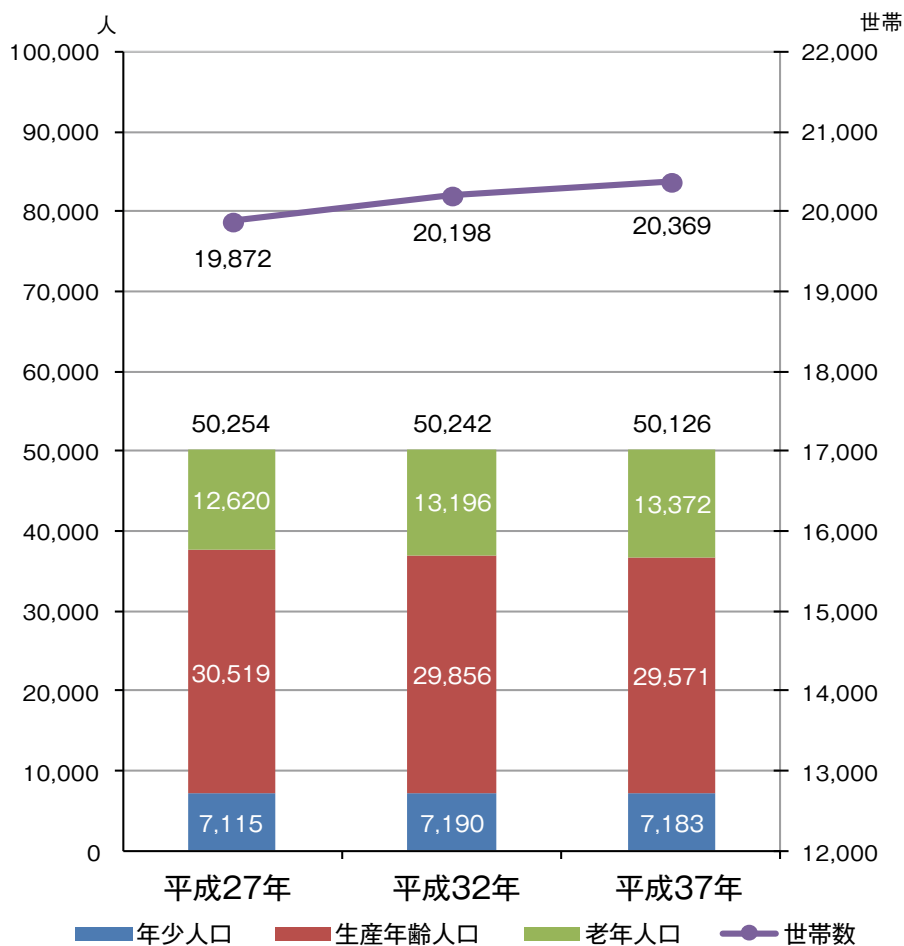
(4) 将来推計人口

亀山市の将来人口は、これまでの人口の推移などを踏まえ、平成72年(2060年)を見据えた亀山市人口ビジョンにおいて、「将来人口の展望」を示しています。この「将来人口の展望」においては、少子化対策を進めるとともに、転入者が転出者を上回る社会増の傾向を加速させることで、世代間・男女間のバランスの良い人口構成と、平成72年(2060年)に概ね5万人の総人口の確保を目指すこととしています。

本構想における将来推計人口においても、この考え方を踏まえ、目標年度の平成37年度(2025年)で総人口を50,126人、総世帯数を約20,369世帯と見込みます。

この間においても少子高齢化は進行することが見込まれますが、総人口の維持とともに、世代間・男女間のバランスの改善を図ることのできる住みよいまちづくりを目指します。

図 将来推計人口



3. 将来都市像の実現に向けて

(1) 施策の大綱

亀山市が目指す将来都市像から導かれる「目指すまちのイメージ」に対応し、その具現化を図るために推進する政策の柱として、5つの「施策の大綱」を位置づけ、まちづくりを展開します。

目指すまちのイメージ

快適に過ごせるまち

人々の暮らしにおける利便性向上に必要な都市機能と、自然や歴史文化などの魅力が調和した『快適に過ごせるまち』を目指します。



施策の大綱

快適さを支える
生活基盤の向上



心と体の豊かさを感じられるまち

人々が住み慣れた地域において、心身ともに健康で生きがいを持ちながら充実した生涯を過ごせる『心と体の豊かさを感じられるまち』を目指します。



健康で生きがいを持てる
暮らしの充実



活力のあるまち

東西交通の要衝としての充実した交通基盤を生かし、広域的な連携・交流と、活発な産業が展開される『活力のあるまち』を目指します。



交通拠点性を生かした
都市活力の向上



豊かな子育てができるまち

亀山市ならではの充実した子育て支援と、質の高い教育に支えられながら、市全体が子どもたちの成長を見守る中で、『豊かな子育てができるまち』を目指します。



子育てと子どもの
成長を支える環境の充実



つながりと交流のあるまち

人と人がつながり、絆のある地域が自立しながら、多様な交流にあふれる『つながりと交流のあるまち』を目指します。



市民力・地域力の活性化



(2) 都市空間形成方針

将来都市像の具現化に向けて亀山市の都市空間を形成していくためには、亀山市の持つ特徴ある地形や現状の都市空間の利用状況を踏まえつつ、生活圏の広域化や発生が予想される災害に対応し、「住み続けられる」「選ばれる」ために必要な都市機能が集積・連携した都市づくりを進めることが必要です。

こうしたことを踏まえ、亀山市の都市空間形成の基本方針として、次の4つの方針を掲げます。

[基本方針]

- ◎住みやすさの向上に重点を置いた土地利用の推進
- ◎地形や自然環境、交通網の充実など市の魅力の発揮
- ◎災害に対する防災力と災害発生時の都市機能の維持・確保
- ◎充実した交通網を活かした近隣市との広域連携の強化

◎基本的な考え方

基本方針に基づく都市空間の形成を図るため、次の6つの考え方を基本とします。

① 中心的都市拠点の強化

亀山市では、JR亀山駅・井田川駅・関駅といった交通拠点を中心に、行政・商業・医療・文化など様々な都市機能の集積している都市拠点が形成されており、これらの都市拠点を核として周辺の居住地と道路網やバス交通網などのネットワークにより、それぞれの特徴を持った生活圏が形成されています。しかし、商店街における空き店舗の増加や公共施設の老朽化など、都市拠点における求心力の低下が見られます。

今後は、それぞれの地域の特徴を生かしながら、市民の快適な暮らしを支えられるよう、都市拠点の機能の充実・確保を図ります。中でも、市域全体の中心的都市拠点であるJR亀山駅周辺地域においては、駅周辺の再整備を進めることで、拠点性の一層の強化を図ります。

② 交通拠点性の強化による都市活力の向上

亀山市では、高い交通拠点性を背景に積極的な企業誘致活動を行い、市内の工業団地などに多様なモノづくり産業が集積しています。こうした交通拠点性を背景としたモノづくり産業が、亀山市の地域経済や雇用を支えるなど、都市活力の源となっています。

今後も、広域交通網を中心とした交通拠点性のさらなる強化を促進するとともに、そのポテンシャル^{※1}を生かした多様な産業基盤の整備を進めます。

さらに、将来のリア中央新幹線市内駅の整備を見据え、広域的な交通拠点性の強化を意識した都市形成を図ります。

※1 可能性、潜在する力のこと。

③ コンパクトなまちづくりの推進と適切な土地利用の誘導

亀山市は、企業立地の促進や子育て支援の充実などにより、市北東部を中心に活発な土地利用が行われています。一方で、こうした土地利用の動きは、都市拠点の求心力の低下とも相まって、都市の拡散へつながり、既存市街地における空き家の増加など、市街地の空洞化にもつながっています。

そこで、活発な土地利用を都市の活力につなげられるよう、用途地域外での開発をできる限り抑制し、鉄道駅を中心とした既存市街地への都市機能の誘導を行うなど、適切な土地利用を促進します。さらに、既存のインフラ^{※1}等の都市基盤を生かしたコンパクトで利便性の高いまちづくりを進めます。

④ 心地よい居住環境の形成

亀山市では、東海道の宿場町の面影を残す関宿や、亀山城址など、豊かな歴史文化を感じられるまちなみや歴史的な景観が残されています。また、鈴鹿山脈や鈴鹿川などの豊かな水と緑の自然は、人々の手で守られながら受け継がれてきました。

これら歴史的な風致や豊かな自然は亀山市の魅力であり、子どもから高齢者まで市民の暮らしに憩いや安らぎをもたらすもので、都市空間の基盤となるものです。

こうした亀山市の都市空間の基盤と市街地や居住環境との調和を保ちながら、東海道を基軸とした歴史的な風致の維持向上と自然環境の保全を図ります。

⑤ 安全な居住環境確保に向けた都市の安全性の向上

南海トラフに起因する地震や巨大化する風水害など自然災害への危惧が安全な都市づくりの必要性を高めています。

こうした中、津波リスクの少ない内陸都市としての強みを生かした安全な居住環境を確保するため、土砂災害や河川災害などの災害リスクに対する都市の防災力を向上させるとともに、災害時における都市機能の維持という視点による災害に強い新庁舎の建設を進めるなど、災害に強い都市づくりを推進します。また、道路整備や公共交通の充実等により、日常生活の安全性が確保される都市基盤の整備を推進します。

⑥ 近隣市との連携強化

幹線道路網の整備や鉄道の利便性向上により、年々生活圏の広域化が進んでおり、市民の生活を支える都市機能についても、市内外の持つそれぞれの都市機能の分担と活用が求められます。

市民の快適な暮らしを支えるため、鉄道等の公共交通や広域幹線道路網を活かした近隣市等との広域連携をより一層推進し、都市機能の分担等による広域都市圏としての「住みよさ」の向上を図ります。

これらの都市空間形成の基本方針と基本的な考え方にに基づき、次ページのとおり都市空間形成方針図を描きます。

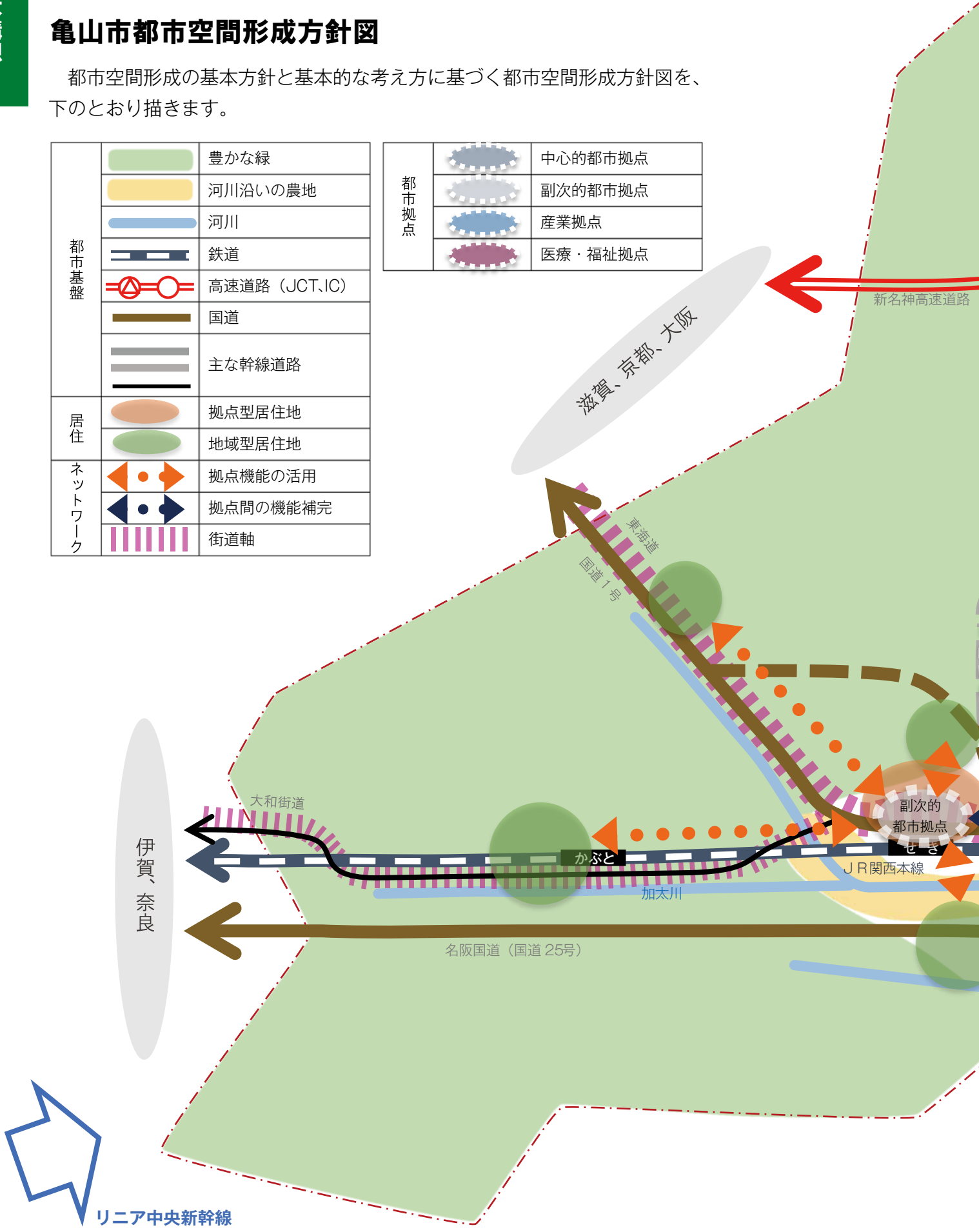
※1 インフラストラクチャーの略で、社会資本などと訳される。道路、上・下水道、電気、公共施設など産業や社会生活の基盤となる施設のこと。

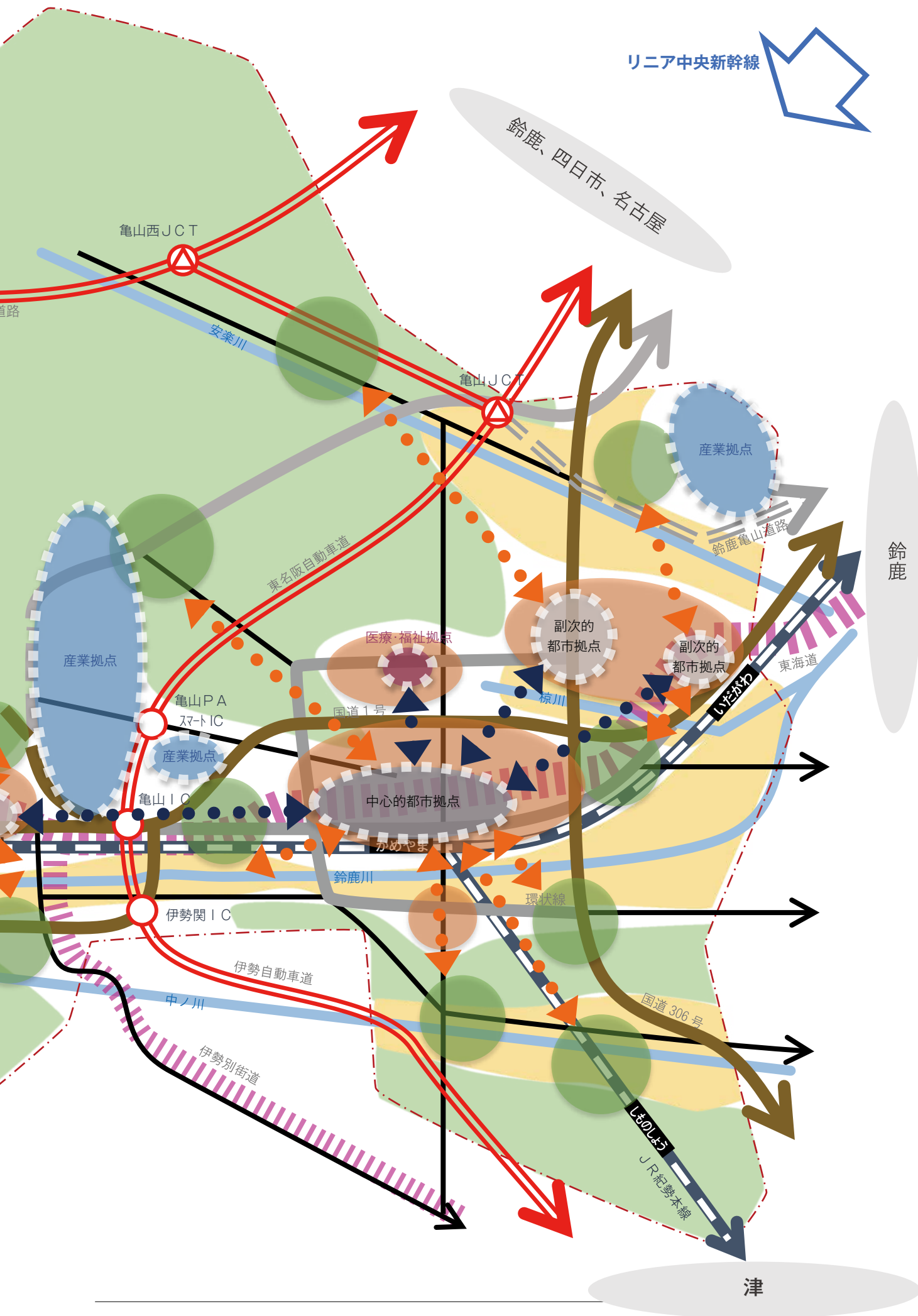
亀山市都市空間形成方針図

都市空間形成の基本方針と基本的な考え方に基づく都市空間形成方針図を、下のとおり描きます。

都市基盤		豊かな緑
		河川沿いの農地
		河川
		鉄道
		高速道路 (JCT, IC)
		国道
		主な幹線道路
居住		拠点型居住地
		地域型居住地
ネットワーク		拠点機能の活用
		拠点間の機能補完
		街道軸

都市拠点		中心的都市拠点
		副次的都市拠点
		産業拠点
		医療・福祉拠点





前期基本計画

平成29年度～平成33年度

KAMEYAMA

まちづくり編

戦略プロジェクト

(1) 戦略プロジェクトの位置付けと役割

戦略プロジェクトは、基本構想における将来都市像「歴史・ひと・自然が心地よい 緑の健都 かめやま」の具現化に向けて取り組む前期基本計画の推進力を高めるため、人口減少社会に対応し、持続的に成長することができるよう、政策や施策の枠組みにとらわれない戦略的な視点に基づき、重点的に取り組むものとして位置づけます。

前期基本計画においては、戦略的視点に基づいた5つの戦略プロジェクトを設定し、関係する政策や施策を連動させることで、相乗効果を高め、計画全体の推進を牽引させようとするものです。

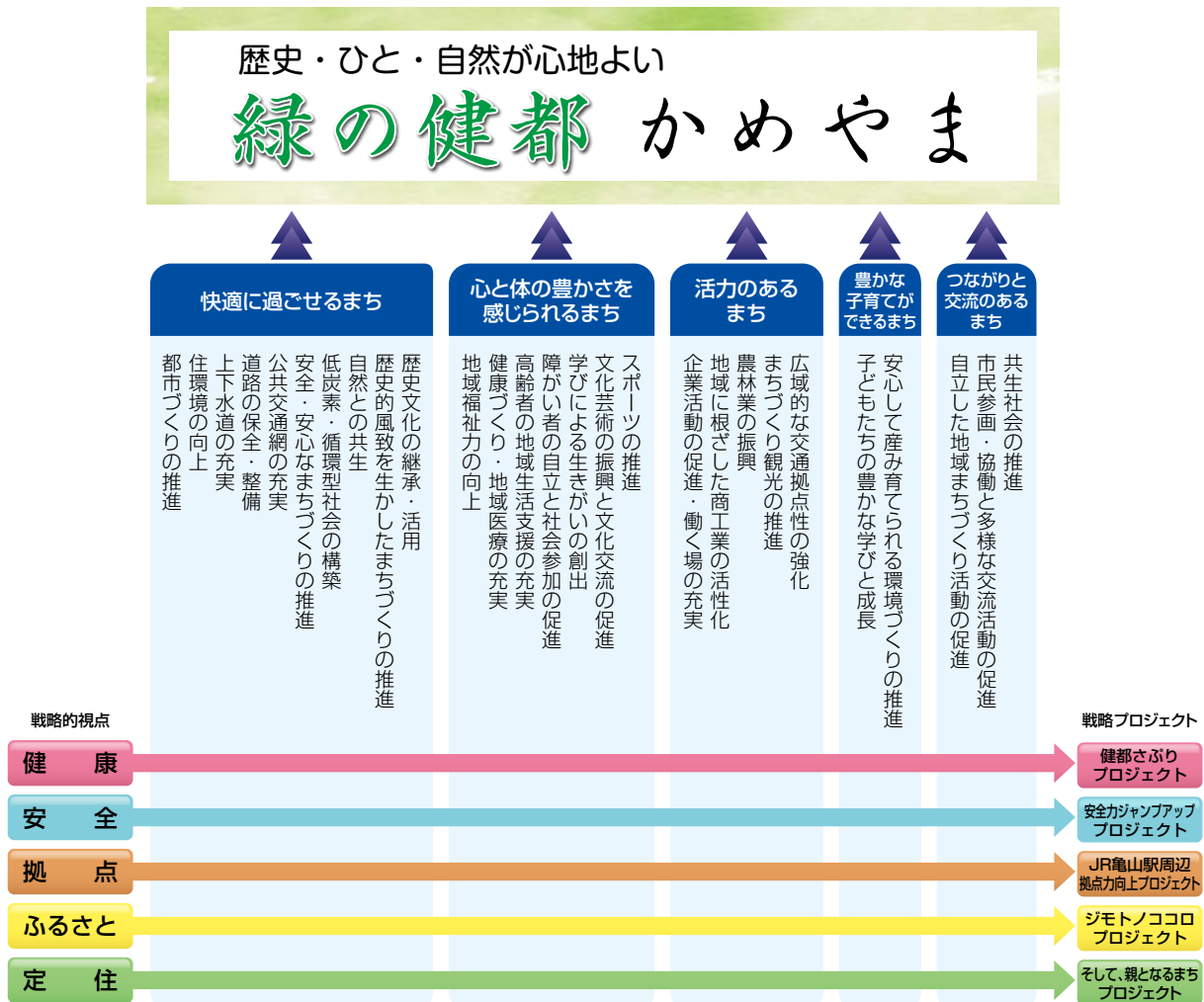
【戦略的視点の考え方】

亀山市が持続的に成長していく健康都市であり続けるためには、人と都市の両方が健康であり続けることが必要です。

そのためには、市民の健康的な暮らしを支える都市全体の『健康』の視点、高まる災害リスクに備える『安全』の視点、快適かつ魅力的な都市拠点をつくる『拠点』の視点、市民の愛着と誇りの源泉である自然と歴史を受け継ぐ『ふるさと』の視点、そして、この地で子どもを育てながら住むまちとして選ばれる『定住』の視点が大切です。

これら5つの戦略的視点により前期基本計画の政策・施策を見たとき、関係する政策を連動させ、一体性を持って取り組むことで、持続性を保ち続けるとともに、都市の成長力を強化することを目指します。

[戦略的視点を通じた政策・施策と戦略プロジェクトの関係図]



(2) 戦略プロジェクト

戦略プロジェクト 1 『健都さぷり』プロジェクト

◆ 戦略的視点

市民の健康的な暮らしを支える都市全体の『健康』の視点

◆ プロジェクトのねらい

「健康都市」として市民の健康を支える都市環境を整え、市民が自分自身で、地域で行う主体的な健康活動を促すとともに、市民のライフステージに応じた健康づくり支援を行うことで、市民の健康寿命を伸ばし、健康的で豊かな暮らしの実現を目指します。

◆ プロジェクトの取り組み

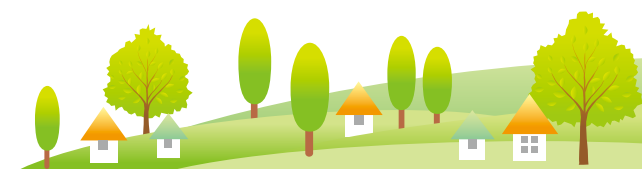
まち・ひと健康環境の充実

◇誰もが身近で手軽に健康づくりに取り組む意識づくりを行うことで、市民の身近な運動習慣やスポーツなどの機会を通じた、市民一人ひとりの健康づくり活動を仲間や地域へと広げる、健康環境づくりを進めるとともに、公共施設や公共空間についても市民や地域の主体的な健康づくり活動を支えられる環境整備を進めます。

◇市立医療センターを核として、市内医療機関等との連携により市民の健康を支える地域医療体制の充実を図り、市民の健康を支えます。

住み慣れた地域で自分らしく健康に暮らし続けられる環境づくり

◇住み慣れた地域で健康に暮らし続けることができるよう、地域の医療、介護、生活が一体的となった地域包括ケアシステムの構築を図ります。



戦略プロジェクト 2 『安全カジャンプアップ』プロジェクト

◆ 戦略的視点

高まる災害リスクに備える『安全』の視点

◆ プロジェクトのねらい

南海トラフに起因する大規模な地震災害の発生や、近年、大型化する風水害など、本市における災害へのリスクに備え、自助・共助・公助により、市全体での防災力・減災力の向上を目指します。

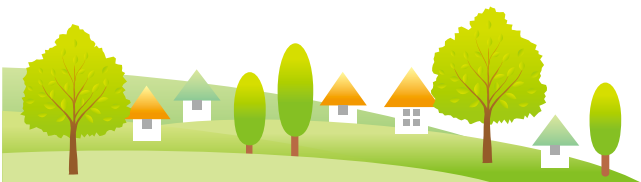
◆ プロジェクトの取り組み

市民・地域のつながりを生かす自助・共助の強化

◇災害時において、自らを守る自助と、相互に助け合う共助の重要性を市民一人ひとりや地域での意識を高め、それぞれが自らを守ることのできるよう、地域住民が自らの課題として捉える地区防災計画の策定を進めるとともに、自主防災組織などの防災組織の強化を図ることで、災害に強い地域づくりを進めます。

公助の推進

◇様々な災害時に必要な都市機能を維持することができるよう、公共施設や道路等を含めた都市インフラの強靱化を進めるとともに、防災時の中核となる新市庁舎のあり方を検討します。



戦略プロジェクト 3 『JR亀山駅周辺拠点力向上』プロジェクト

◆ 戦略的視点

快適かつ魅力的な都市拠点をつくる『拠点』の視点

◆ プロジェクトのねらい

本市の中心的拠点であるJR亀山駅周辺のにぎわいと都市機能を高めることで、中心的都市拠点の求心力の向上を目指します。

◆ プロジェクトの取り組み

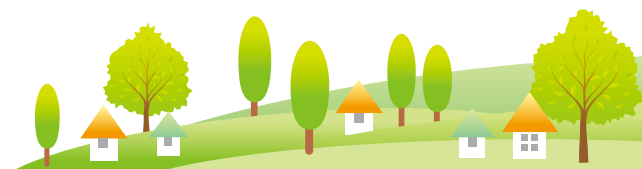
中心的都市拠点の求心力向上と拠点近接居住空間の形成

◇市の玄関であるJR亀山駅周辺の再生を進めるため、民間活力を生かしつつ、公共施設や公共的機能の移転を行うなどを通じて、中心的都市拠点の求心力向上を図ります。

◇中心的都市拠点の機能を最大限に生かすことができるよう、拠点周辺への居住誘導やまちなか空家の活用への支援を行うことで、拠点近接型の便利な生活空間の形成を図ります。

都市拠点の機能を暮らしに生かすネットワークの強化

◇市民の暮らしを支える中心的都市拠点や副次的都市拠点などの充実した都市機能を最大限活用できるよう、道路や公共交通網などを有機的に連携させることで、都市拠点間の機能補完と拠点周辺や地域の居住地とつながりのある有機的なネットワークの形成を図ります。



戦略プロジェクト4 『ジモトノココロ』プロジェクト

◆ 戦略的視点

市民の愛着と誇りの源泉である自然と歴史を受け継ぐ『ふるさと』の視点

◆ プロジェクトのねらい

5万人の人々が暮らす亀山市には、豊かな自然と歴史文化という「ふるさと亀山」の源があります。この「ふるさと亀山」の源である自然と歴史文化を守り、継承することで、市民一人ひとりが愛着と誇りの醸成を目指します。

◆ プロジェクトの取り組み

源流を守る水と緑のつながる自然の保全・活用

◇市域を流れる鈴鹿川とその源流となる鈴鹿山脈など、市民の暮らしの中に身近にあり、憩いを与えてくれる豊かな自然環境を市民・地域・事業者などの多様な主体が連携・協働しながら守り、次代へ継承します。

◇鈴鹿の山並みなどの豊かな自然資源に触れる機会を通じて、市民の地域への愛着を高めるとともに、積極的な発信を行うことで市の魅力を広め、市民や来訪者などの交流の充実を図ります。

歴史的風致の維持向上

◇東海道を基軸として、亀山宿・関宿・坂下宿の3宿のそれぞれの魅力を高めるとともに、そこにある暮らしとの調和を図ることで、3宿とそれをつなぐ沿道全体の歴史的な魅力あふれる都市空間の形成を進めます。

ふるさと亀山を愛し、誇れるシビックプライドの醸成

◇それぞれの地域の特性を生かした小中学校での学びや、歴史博物館や自然公園などでの自然や歴史などに触れたり学んだりする機会を通じて、シビックプライドの醸成を図ります。



戦略プロジェクト 5 『そして、親となるまち』プロジェクト

◆ 戦略的視点

この地で子どもを育てながら住むまちとして選ばれる『定住』の視点

◆ プロジェクトのねらい

亀山市が将来にわたって持続的に発展していくためには、若い世代が子育てしながら安心して住み続けられるまちであることが必要です。その実現に向けて、恵まれた子育て環境の更なる充実とその魅力の発信を強化することで、子育て世代の更なる定住を促進します。

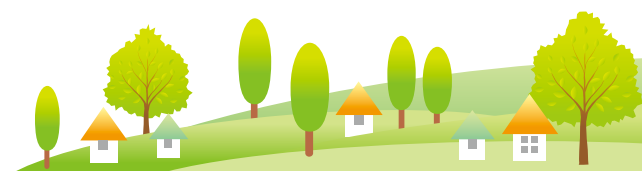
◆ プロジェクトの取り組み

親と子の成長を支える「子育てにやさしいまち」の充実

- ◇子育て世帯のネットワークの形成や、市全体で子育て世帯を支える環境と意識の醸成を図ることで、子育てが孤立しない環境づくりを進めます。
- ◇経済的な負担、待機児童^{※1}問題をはじめとした子育てに関わる多様な不安を解消するため、必要な子育て支援の充実を図ります。
- ◇子どもたちが夢に向かって成長することができるよう、地域・学校が連携した質の高い学びを展開するとともに、それを支える親がともに成長していける家庭教育の充実を図ります。

子育て世帯の定住促進

- ◇自然豊かで魅力的な居住環境の中で、充実した子育て支援を受けながら安心して子どもを育てることのできる本市の魅力や、戦略的なプロモーションにより効果的に広めるとともに、ターゲットを絞った定住支援を行うことで、子育て世帯の定住促進を強化します。



※1 保育所等へ入所申請をしながらも定員超過などの理由から入所できない児童のこと。